

平成25年度

「学生によるオレンジリボン運動」

静岡県立大学短期大学部・佐々木ゼミ実施報告書



実施主体 社会福祉学科 社会福祉専攻2年 佐々木ゼミ学生

実施内容 平成25年11月10日(日)大学祭で児童虐待シンポの開催

①事前に取り組んだ内容

オレンジリボンの背景について、ゼミで事前学習した。虐待の実態及び事例について、最新の虐待現状について資料収集を行った。児童虐待防止啓発資料として、手づくりポスターを作製した。学園祭に向け児童虐待シンポジウム資料を作成した。虐待の事例を基に、虐待防止に向けた取り組みについて、それぞれの立場で何が出来るかについてゼミで協議した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

- ・児童虐待防止に向けたチラシ(3,000部)及びのぼりを作成し、静岡駅前及び東京新宿東口駅アルタ前で、児童虐待防止に向けた啓蒙活動を行いチラシの配布を行った。(写真参照)
- ・平成25年11月10日学園祭で、「防ごう児童虐待・守ろう子どものいのち」をテーマに、シンポジウムを、子ども虐待防止センター静岡と共同で開催した。
- ・上記の開催においてオレンジリボンを参加者に配布しシンポジウムではリボンの説明をした。

③「オレンジリボン運動」を終えての感想等

- ・この企画を通して、オレンジリボンが学生には余り知られていないことに気が付いた。
- ・オレンジリボンをシンポジウムで配布し、シンポジストがその発端となった虐待事例を報告したため、会場からは、涙声が聞こえ衝撃的であった。
- ・保育士養成校として、児童虐待防止への取り組みは、今後の教育活動に有意義であったと考えられる。
- ・なぜなら、虐待の過程にはグレーゾーン(啓発・教育)、イエローゾーン(要支援)、レッドゾーン(要保護)の3段階があり、これらは未然防止が可能なことを学生は学んだからである。
- ・チラシの配布を通して、学生はこの小さな活動が、地域の子育て支援と社会全体で子どもを養育して行かなければならない必要性を学んだ。
- ・シンポジウムでは、オレンジリボンの背景、虐待の現状、虐待の事例、虐待の防止など、学生は幅広く学習し、保育士として、将来子どもの命を守って行く社会的責任を学習した。

